

【足立区地域自立支援協議会子ども部会】会議概要

会 議 名	令和元年度 第2回 【足立区地域自立支援協議会子ども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和元年9月3日(火)
開催時間	午後2時00分 ~ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 研修室3
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	<p style="text-align: center;">次第</p> 1 開会 障がい福祉センター所長挨拶 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 事例検討 (3) その他 3 事務連絡 (1) 第3回子ども部会 令和元年11月5日(火)14時00分より (2) その他
資 料	令和元年度足立区地域自立支援協議会第2回子ども部会次第及び席次 令和元年度足立区地域自立支援協議会第1回子ども部会報告書 課題一覧表(事務局) 事例検討資料(あやせ保育園) 足立区立自立支援協議会子ども部会資料(うめだ・あけぼの学園) 「支援者のための失語症講座」案内ちらし
そ の 他	

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

【司会】

本日はお忙しい中、ご足労いただきありがとうございます。

事例検討等の資料をご提供いただき、ありがとうございます。

申し遅れましたが私は司会を務めます障がい福祉センター幼児療育係長をしております勝田と申します。よろしくお願いいたします。

まずは資料の確認をさせていただきます。

資料1 式次第

資料2 第一回こども部会報告

資料3 事例検討資料

資料4 席次表

資料5 失語症講座チラシ

7月5日に行なわれた第1回こども部会の報告をお配りしています。

この自立支援協議会は発言等会議内容及び発言者名など後日議事録を公開いたします。また議事録作成のため、録音をさせていただきます。

発言される方は、発言の前にご所属とお名前をおっしゃってください。

お手数かと思いますが、ご了承ください。

それでは令和元年度第2回足立区地域自立支援協議会こども部会を開始いたします。

足立区障がい福祉センター所長江連よりご挨拶をさせていただきます。

江連所長よろしくお願いいたします。

【江連所長】

皆さんこんにちは。障がい福祉センター所長の江連です。

【司会】

では、時間も限られていますので、本日も早速ですが加藤先生にバトンタッチさせていただきます。

本日は事例検討会となっています。事例検討の資料の方は回収させていただきます。ご了承いただけたらと思います。それではよろしくお願いいたします。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

この長い2か月間が、我々のこの会の趣旨とかミッションに対する思いを通過点にさせてしまっているという可能性が大きくなっていると思います。そういう意味では、改めてここで、再度テンションを上げて、今年後半に突入していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。今日は、前回ご案内させていただきましたように、少し具体的な事例を通して、我々の身近で子どもたちにどんなことが起きているのか、どんなことが課題になっているのかを、少しリアリティをもって考えてみようということ今回計画をしたところではありますが、その前に、この2か月の間、皆さんそれぞれのグループで色々ホットな話題とかニュースとか情報とかがお有りになる方もおられると思いますので、その辺をまず、ざっと共有して、それから本題に入っていきたいなというふうに思っております。突然ではありますが、よろしくお願いいたします。それでは、寺山委員からお願いします。

【寺山委員】（足立つくし幼稚園園長）

つくし幼稚園の寺山です。夏休みということで、幼稚園も1か月半近くお休みだったんですけども、その間預かり保育をやっていて、50人くらい来てたんですが、大体250人近くはお休みだったということで、家庭内でも色々なことがあったようで

す。子どもの様子を見てると、預かりの時間は夢中になって遊んでいるので、それほど変化は見られないんですが、今まで健やかに育ってきた子も、それがきっかけで、今まで健康的だったのに、例えば、携帯で遊んだりとかならないかなと心配しながら見ています。それと来年度に向けて、入園の問い合わせが来るんですけども、

「今、療育を受けているんですけども、幼稚園には4年で行けますか」とか、最近とても増えてきている感じがしますね。おそらく、そういう療育機関が増えてきたというのもあると思うんですけど、ただ療育機関に行ってるから幼稚園に入れませんということじゃなくて、ちゃんとそういう時にヒアリングして、それが本当に幼稚園に来るのが適しているのかを見てからお互い話をしてからやっっていこうねという話を園ではしているんですけども、だんだんそういうのが広がってくればいいなと思います。私たちだけじゃなくて、他の幼稚園でも、頭ごなしにお断りしちゃうところもあるようなので、もうちょっと現実的にできることとできないことを分けて、幼稚園の中でも、受け入れられる幼稚園と受け入れられない幼稚園というのがあると思うので、交流が進んで、障がいのある子もない子も一緒に、時間が過ごせる場所としての幼稚園というのがだんだん足立区の中でもできてくればいいなと思います。以上です。

【渡辺義也委員】（興野保育園園長）

興野保育園の渡辺です。前回7月ということですが、その前後から含めてなんですが、児童相談所から通告があったということで、問い合わせが増えていきます。大きなことはないんですけど、小さなことでも確認をするというところで、連絡がかなり入るようになって、だいぶこまめにやるようになってきたのかな、方向性が細やかになってきたのかなというところを感じている

ところなんです。あとは、幼稚園と同じで、やはり見学に来る方がこれから保育園の方でも増えてきます。そういう中で、いろいろな相談も含めて、保育園側もそういう体制を整えていきたいと思っています。また、私は社会福祉法人連絡会というところに関わっているんですが、そこはいろいろな社会福祉法人が関わっていますので、障がい者ということ言えば、高齢、介護、そして児童というようなところがあるので、この会議と何か連携がとれないかなと考えています。そこは法人連絡会ですから法人同士が連携して、何らかを探っている場所なので、もしかしたらもうちょっと連携取れる場所なのかなというふうに思っています。また、NPO法人と最近つながりができて、7月以降、施設長や担当者と会って、興野保育園の子どもたちと療育施設のお子さんたちが交流できる場所、機会を作っていこうという話になり、まだ実際に活動はしていないんですけど、またこの会でそういう場所とか、活動ができれば嬉しいかなという、まもなくまた具体的な打ち合わせの連絡があるんじゃないかなというふうに思っております。7月からの様子としては以上になります。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）

きたせんじゅステップの松永でございます。遅れてきて申し訳ございませんでした。夏休みというのは、放課後等デイサービスですと、普通は午前第一部だとか二部だとか、午前中は結構ゆったり過ごしているんですけども、夏休みだと朝からお子さんがいらっしゃるということで、お子さんのストレスが溜まっていくというか、外でよく遊ぶと暑くて、というところです。その中でも、もうすでにこの夏から、上のお子さんが「通えませんか？4月から。」というお問い合わせが非常に多くて、発達

もやっているのです、「じゃあ1日でもいいから発達に入れてください。そのあと、デイに入れてください。」と。デイがいっぱいなので、発達は3年くらいで卒業しますが、デイは6年いられるので、もういっぱいになっちゃうんです。非常に断っている率が高くて、親御さんが非常に困っています、1~2年くらい前から活動しても、「通うところがない」という1つ前の時代に戻っちゃったんじゃないかという状況だったり、本当に仕事を辞めている親御さんも「ここが決まってから仕事だよー」という方もいるくらい、切羽詰まったような連絡が毎日あります。そこはどうかしていかないといけないんじゃないかなーと思っ

ているところがあります。また、これはまさに加藤先生ともそうなんですけれども、事業者が集まって、研修会を常にやっております、今年で4年5年というところになっております。これもこういった場を利用しながら、今年は10月か11月からという形で、事業者に向けた虐待と障がい知識や障がい理解というところで、そこは志願してやっているところでもあるので、その下準備を夏はやっているところであります。それから外国人労働者について、かなり困っていることがありまして、特例研修制度、特定研修者というところをしっかりと考えていかないといけないなと思っております。9月はそこも含めて、支援事業所と言うんですけども、そこをどのようにできるかという課題が1点と、外国人が入っていくと、外国人の子どもって、親御さんが英語もしゃべると日本語もしゃべると、どうしようってことが、これから多くの労働者が入ってくるのにあたって、働き方改革と合わせて外国人の方の支援という課題、と合わせて、外国人の労働者がいつも日本人に支援するという想定をしていかないといけないんじゃないかなと。うちは1人外国人がいるんですけど、その方は生まれた

のが日本なので日本以外知らないっていう、ただ国籍だけは外国の国籍なんだという方が1人働いておりますので、そういった形のことも考えていかないといけない、介護の方はもう入っているのです、今月そのガイダンスの方に行き、そこを見学しに行こうというふうになっています。盲の方がやっているマッサージがあって、日本にもって来られないだろうかという話なんですけれども、ちょっと考えながら行きます。旅行がてらに見てようかなと思っています。以上です。

【渡辺直子委員】（一般社団法人ねっとワーキング）

一般社団法人ねっとワーキングでペアレントメンターをしております渡辺直子と申します。前回お休みしてしまっ

てすみませんでした。ねっとワーキングでは、大体月に1回、テーマを決めてぴあサロンという形で、利用者さんを募ってお話の会をしているんですけども、6月にはメンターの子育て経験談というものを実施したんですけども、10組前後、たくさんの親御さんが集まってくださいました。メンターの子育て体験談を話すことが一応のテーマではあったんですけど、利用者さん同士ですごく話が広がって、どこの小学校の支援教室はすぐに電話したら見学させてくれたとか、あそこは児童の保護者に許可を取らないと見学できないとか、そういう親御さん同士での情報交換をすごくされていて、良い場になったかなと思いました。私たちも体験談を少しお話したんですけども、どの程度障がいを受容されているのか様子を見ながらお話したんですが、今回集まられている方は割と受容されていて、将来のこととか、就労しているメンターの話とかも聞きたいという形で聞いたりして下さっていて、情報交換の場になっていたと思

いました。前回の議事録を読ませて頂きまし

て、サポートブックの話題が出ていたと思うので、ネットワーキングの方で作成しております、サポートブックの見本をお持ちしましたので、ご参考に回覧してください。まず、表紙があって、最初成長マップという形で、母子手帳のような内容、いつ頃寝返りをうったとか、首がすわったとか、歩きましたとか、そういったことをまずここに書き、あとはプロフィールという形で、住所、診療先の病院、療育先、生活面、食事面、好きな遊び、移動、外出手段など、そういったものを書くページがあります。あとは、良いところづりと言いまして、1年に1回記入している箇所があります。例えば幼稚園の年長さんの時には、

が好きでしたとか、アンパンマンにハマっていましたとか、得意なこと、自分が挑戦していることとか、褒められたこととか、あとはハマっているところとか、その子のすごく良いみたいなおところを書くようなものがあります。これを1年に1回メモ程度でいいので、そんなにハードルは高くないかなと思いまして、実施しております。一応このファイルに、どんどん年ごとに1年、1枚ずつ書き足して行って、つづっていく、将来の年金の資料にしたり、園や学校にお子さんのことをお伝えするために活用したり、あとは親御さんによって使い方はご自由にどうぞというもので、個別支援計画や、健康診断の記録と一緒にして、将来手元に残って振り返った時に、いろんな書類を作るときに役立てたらいいなと思って作っています。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

放課後等デイサービスの皆さんはご存知かと思うんですが、20年くらい前に結構話題になって、各地で取り組まれたんですね。その後、あまり表に出てこなくなりましたが、それは悪いことではなくて、むしろそれをきっかけにどんどん地域に広がって、深く潜行していったのではないかと

というふうに思っているんですけど、いずれにしても、こういうものが、当事者の持つ情報、当事者が主体的に制御コントロールすることのできる情報、こういったものは子どもの成長の過程の中で、いろんな機関でいろんな人がそれぞれに不連続に持っている訳です。本人の知らないところで、それが消えたり、勝手に走り出したりみたいな状況がある訳です。だから、それを1つは納得したということと、もう1つは似たようなことをどこに行っても掘り掘り何度も何度も聞かれる訳ですよ。それは聞かれる側もうんざりしているし、中身的にももうそんなことは思い出したくないみたいな話をあっちでもこっちでも聞かれる訳ですよ。そういう意味では、こういう自分自身みたいなものを持っていて、そして自分の成長する過程で様々な人に様々な状況、課題の中で相談する、あるいは課題を持ちかけるときに、自己紹介的に見てもらったり、あるいはいろんなお医者さんであれば、それがそこに全て書き込まれている、その人のライフサイクルが1冊に閉じ込められている、そんな冊子ですよ。それが一応良いんじゃないかということで、ずっと議論されてきた経緯があるんですけども、ただこれだけのことを足立区でやるとすれば、やっぱり家族だとか当事者たちだけが勝手にやっているだけでは、あまり良くない。役に立たないと思います。これはその子どもに関わる医療、教育、福祉、保健、様々な関係者がそのことに対して、同意をして、みんながそのことを知り、そのことに意味を感じ、積極的にコミットしていく、そしてそれをお互いに大切な個人情報として共有し合って、その人の資源として使いこなしていくというような、そういう地域が出来上がるといいなと思うんですけど、そういう意味では、去年この会でもそういうことが話題になったかと思いますが、まあ具体的にこういう形

でね、渡辺委員の方から提示していただいで見させていただいているんですけど、それこそ足立区の子どもの関係者がそこできちっと合意を形成すれば、そんなに難しいことではないんじゃないかと思うんです。だからそうすることによって、この地域に住む子どもと家族が子育てができていくみたいなの、そんな地域に作りあげていくのが1つの手立てになるんじゃないかなという気がします。これはまた何かの機会に話題にできればと思います。ありがとうございました。上原委員お願いします。

【上原委員】（あやせ保育園）

あやせ保育園の上原です。よろしく願います。保育園の7~8月は、ほぼ5月や6月と変わりなく、たくさん子どもたちが元気に登園してきました。お父さんお母さんのお仕事がお休みでも、旅行に行くとか、家族で出かけるということ以外は、結構しっかりと登園しているという傾向が年々強くなってきていると思います。生活リズムが乱れないというところでは、来ていただいでいいかなというふうに思っていて、ただ夏風邪とかが結構流行って、一番流行ったのが手足口病で、その次がヘルパンギーナ、RS ウィルスというあたりで、体調が悪い時にはやっぱりしっかり休んで、お医者さんが大丈夫って言ってから登園していただきたいなと思っているんですけども、やっぱり流行を防ぐのに結構厳しい状況を感じていた夏でした。あとですね、年長児のお子さんの保護者の方が就学相談を申し込んでいて、園の方に実態把握票の作成ですとか、そういう依頼が始まっています。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

では、所長よろしいですか？

【江連所長】（障がい福祉センター）

はい、1つだけ。細かい数字までは思い出せないのですが、うちの外来の療育の部門の人数は、年度末に大体1,000件位になるんですけども、今の9月くらいで、昨年度は750件くらいだったのが、今年度は8月途中の段階で830~840件くらいまで増えてきているというところなんです。平成29年度から、相談の入口がげんきの発達支援係に移って、保育園・幼稚園との連携がスムーズになり、広く対応して頂いているところで、課題のあるお子さんをしっかりと掘り起こすという部分があるのかなと思っています。ちょうどこの8月~9月になってきますと、就学に向けて検査を実施したり、就学相談につなげていくということを行っています。ただ一方で、増えるだけでなく、他機関や他事業所への移行をしていたり、もうこれ以上のニーズはないというところで、辞められる方の中にはいらっしゃる部分があって、その追跡という部分は今後の課題になってくると思います。こども家庭支援課に情報提供したり、課題があるけれども関係機関と離れてしまっている方に関して、今後どうフォローしていくのかというところは、学校に上がるころまでを含めて、対応をできないといけないという課題を持っています。あと、先ほどお話があった連携というところで色々ご意見頂いて、ふと思ったのは、今のお母さんたちは、ネットとか携帯とか、アプリみたいな形で記録をしていくような、インスタじゃないですけども、そうすると写真を撮りやすいとか、そうなるとアプリの中に、年齢に応じて、区としての情報を提供できるとか、いろんな使い方ができるのかなと思ったりもしたんです。ただ、他の方が見られる連携ファイルにはならないので、そういった課題はありながらも、いろいろな多方面への働きかけの中で、情報提供と自分のその認識であるとか、管理、把握というところが連携

してくるといいのかなと、思い付きも含めての報告になりました。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

今の話ですけど、去年も話題にしていたんですけれど、今はかなりアナログ的なものを見せていただいたんですけど、将来的には、チップになると思うんです。その気になればあつという間にできると思うんです。そこに何ギガという情報がワッと入ってくる訳ですから、そういう意味ではそのチップを本人が持っていて、しかるべき場所でそれを提示していくっていうような、そんなことができれば、いろんな意味で今後、ハードソフト両面において広がるだろうなと。ただ、それも時間的な問題だとも思うんですけど、まだまだそこまで進んだ例は見たことはないですけど、ゆくゆくは多分そうなるんじゃないんですかね、きっと。そんなに先の話じゃないんじゃないかなというふうにな、まあ発信する側と受信する側にはもうそういうパワーが物凄く育ってきてますので、そういう意味では、そういうふうにならなくてもいいんじゃないんですかね。まあある意味これもまた、足立区にその気があれば、宣伝もつけて、やったりすればいいんじゃないんですかね。はい、ありがとうございました。では、幼児療育係は。

【勝田係長】（障がい福祉センター）

幼児療育係は、さきほど所長からも話が合ったんですが、療育を受けたいという方がいらしているということでは、こちらの方も少しずつ、色々な方法で療育ができたならなところ、今まで幼稚園・保育園に通っている方はみんな外来個別指導ですというふうにしていたんですけど、やはり幼稚園でも座ってられないとか、集団の場面で療育が必要なお子さんという部分で、幼稚園に通いながら利用できるグルー

プでの療育を始めるなど、少しずつではありますが、できるところから変化をさせているところです。あと、係内に福祉職を配置して、ケースワークとか福祉の資源の紹介もできるようにというふうに進めています。今までどうしても、なかなか民間とうちの療育の併用が難しかったんですけども、場合によっては、民間の事業所等に通いながら、あしすとの療育にも通えるような状況も少しずつ変化をさせているところです。特に、幼稚園に通っている方もそうですし、これから幼稚園に入るというお子さんもどんどんいらっしゃるんですね。そのお子さん方に、どれだけの支援ができて、また次にご紹介していくにあたって、幼稚園にチャレンジしてみたいっていう親心もやっぱりある、もしかしたらうちの子遅れているかな、でも、私立の幼稚園とか、いろんな幼稚園や保育園に行ってみたい、他のお子さんと同じクラスで過ごさせてみたいっていうそのチャレンジの気持ちもある中で、どこまでそのお母さんたちを応援できるか、そのあたりも少しずつ親子グループという未就園児のグループの方ですすめています。より分かりやすいご案内をということで、今年度から通所については見学をすすめ、外来についての説明もしています。あしすとの支援の紹介を先にして、ちょうどこの11月から幼稚園の入園の受付が始まりますので、その前に、お母様方にしっかりとお伝えして、その中で選んでいただく、迷った場合はもちろんこちらの方でご相談をいただくという形でのアプローチを始めているところです。ひよこも何人まで入れるかという定員が決まっているので、その定員の中でなかなかご案内がゆっくりだったところがありますが、ある程度人数がわかった場合は早めにご案内をして、対応をしているというところで

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

今、多職種の話にありましたけど、今年はちょうど政府予算案の改正額が出ます。100兆円、約102兆円、関係予算が30何兆円っていうふうになっているわけですが、特に我々の派遣のところでは、まさに発達支援事業所関係で、ワーカーを1人位置付けをすることがほぼ決まっているんじゃないのかな。もちろん相談支援事業所がある訳ですけども、そこだけじゃなくて、事業所がそういう人を設置するというようなことが今後決まっていくという噂話がちょくちょく出ています。

【勝田係長】（障がい福祉センター）

まさに、福祉職だとやはり、福祉サービスを十二分に理解してご紹介ということになるので、すごく今良い方向に流れていると思います。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

1人分の人件費はなんとかならないんですか？それくらいは？ちょっと今別のところから横やりが入って、行動しています。というのは、この話をしているのか分からないんですが、やっぱり国会議員にレアな方たちが入られたということで、まあ厚労省もそれについて動きを新たに追加した予算で、その分の予算どこから取ってくるのっていう話で今、色々しているみたいですから、下手すると、今後それが取り上げる可能性がない訳ではないんですけど。まあ本当にそういう方が、事業所を回るのが必要だと思います。今度はげんきでよろしいですか？

【オブザーバ長谷川】（こども支援センターげんき支援管理課発達支援係長）

発達支援係の長谷川と申します。よろしくをお願いします。すみません、この後、別件が入っております、言い逃げというよ

うな形で失礼してしまいますけれども、申し訳ございません、お願い致します。私も先ほど江連所長からお話いただいたように、ここらげんきの方に平成29年度に移動しました。そこからやはり連携が良くなったようで、どんどん件数が増えてきております。うちが増えてくるということはひよこもいっぱいになって、あけぼのにもお願いするケースが増えてくるということなんですけれども、早いうちにお子様の課題を、保護者の方が受け止められなくても、少しずつでもお知りになるということでは、とても大事なことなのではないかなと思っております。保健センターの子ども相談にも、うちの心理職がらせていただいております。保健センターの場所をお借りして、そこで出張相談という形で、聞きやすい場所で、げんきでも敷居の高い保護者の方はいらっしゃいますので、相談しやすい環境で相談できるということを努めてまいりました。我が子の課題を知って戸惑う方もいるけれども、寄り添いながら、最善のところを示していきたいなと思っております。未就学はそんな形で進んでいるんですが、今やはり課題があるのは、学齢期の特別支援教育というところでした、7月、8月というところでは、夏休みに入る前の学校の個人面談でご指摘を受けた保護者の方のご相談が増えてきています。1年生の低学年もさることながら、中学年以降のお勉強がそろそろ難しくなってきた頃、というような保護者の方が「どうしよう」とお電話いただくんですが、発達に偏りのある方たちなので、知的な遅れはないんです。ですが、学びの積み重ねができてないんです、4、5年生になってしまうと。ですから、検査を実施すると、認知は高いんですけども、学びのところが低くなって、現状だけ見ると、特別支援学級が適当ではないかというようなお子さんがいらっしゃ

います。けれども、この先特別支援学級に進んでも、愛の手帳が取れないかもしれないし、果たしてそのお子さんにとってどここの就学先がふさわしいだろうかというような悩ましいお子さんが増えているように思います。一言で発達障がいと言っても、本当に多種多様で、その子たちが健やかな生活を過ごすにはどうしたらいいんだろうというのが、日々の悩みでございます。以上です。

【上遠野委員】（こども支援センターげんき所長）

発達関係のところは大事なところでもありますので、げんきの方で続いてお話しさせていただきますだけだと思います。入学年齢では、いわゆるチューリップシート、就学支援シートなんですけれども、かつては障がいがあると思われるお子さんについて保護者の方に出してもらおうようにしていたんですが、その時代には大体全体では7~8%くらいの提出率でした。ところが昨年から方向性を変えまして、全員のお子様のことについて出させていただこうというような方向でシフトしております。昨年は所属している保育園や幼稚園などを通じて、シートを配っていただいておりますが、そこでの全体での提出率が67%でした。我々の周知不足や準備不足もありまして、対応しきれなかったということでございました。今年度につきましては、実は足立区外の幼稚園・保育園に通っていらっしゃる方にもいろいろな課題があるので、就学時健診の時間にお配りして、健診の間に余裕がある場所もありますので、そういうお時間に書いていただいたり、あるいは入学説明会の時に、お持ちいただいたりというようなことで、全員からお出しいただくような方向に今回変わっていく予定です。それで、これまでのように就労前機関の方に書いていただく欄はない

んですけれども、保育園などにつきましては、園の支援シートなどを年明けに出していただくとか資料については別途出させていただくような流れでいきたいと思っております。これが1点目です。2点目は、今まで泣き声通告ですとか、面前DVは、基本的には児童相談所や警察に通告されて、そちらの状況を確認するという流れでしたが、この10月から、東京ルールと呼ばれているんですけれども、そういう泣き声通告や面前DVの通告に対しては、児童相談所が受けたものを区の方にもう一度流して、区の方が実際の確認にあたるという方向に変わって参ります。6月、7月は、児童相談所や私どもげんきの方には数件来ているのですが、10月以降も実施という話になっていますので、今後もそのような通告が児相にいったものは、私どもげんきの方から園の方に確認させていただいたりとか、園の動きになって参りますので、よろしくお願い致します。何分不慣れなところもありますが、ぜひご協力をお願い致します。最後に議会議がらみで、今ユニバーサルデザインということで、勉強しやすい環境づくりということで、そういう取り組みをぜひしてくださいというお話が出ております。我々も学校現場に行くと、例えば小学校の教室だと、前と後ろに色々なものが貼ってあって、周りが落ちつかないという環境が色々ある訳です。そういうところを少しでも改善していけるような取り組みを今後していければいいなと思っておりますので、また皆様からのご要望にもお答えできればと思っております。最後の1点、私ども役所なので、9月から12月の半ばくらいまでで、来年度やっていく事業のための予算をつけるためには、ここで頑張らなければ予算をとらないと、来年4月以降いろんな取り組みが、やりたいと思うことはあってもできない、そういうことになってくる訳でございます。ですので、

皆さんから様々な要望が出てきていて、全部ができるではないんですけども、ぜひいろんなご意見をいただいて、より良い活動がしていければいいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。私からは以上です。

【加藤部会長】（うめだあげぼの学園）

非常に広範囲な情報を頂いたと思うのですが、私的に聞きたいことがあるんですけど、チューリップシートが変わりましたよね？それから得られたメリットって何がありますかね？

【上遠野委員】（こども支援センターげんき所長）

学校現場からは、様々な情報が入ってきて、クラス編成の見立てとか、指導していくにあたっての情報になったりという良い意見と、色んな情報が山盛りでできて大変だっという意見も実はありました。昨年度は準備不足なところもあって、わーっと集まってきてしまったんですが、結果を集計しながら6月か7月辺りに、校長先生や教員の方、あと養護の先生にも入っていただいて、色々ご意見を頂きました。やはり、学校の中でもなかなか情報共有がやりきれなくて、そういう書類を残念ながら校長先生もよくわからなくて養護の先生に全部預けっぱなしみたいなのもありましたので、ぜひ校内できちんと共有していただきたいというようなところでの働きかけを今後しっかりしていきたいと思っております。

【加藤部会長】（うめだあげぼの学園）

こういうのっていうのは、そうやってわーっと集まって大変だろうというその辺の見分けはどうしているんだろうっていうのは素朴な疑問としてあります。あと、もう1つは、そういうものに対する対応ですよ

ね。そのものが学校の中だけで完結しちゃっていいのだろうかという、完結しきれぬのかどうかっていうのが、不安としてあるところなんですけど、どうなんですかね？

【上遠野委員】（こども支援センターげんき所長）

学校の中だけでというよりは、様々な機関が関わって、お子さんの成長を支えていくということだと思うので、ですから、今までごく限られていた人しか出さない、特別なものとして見られていたものではなくて、誰でも若い時はみんないろんなことを伝え合っていくんだよっていう1つの動きを作りたいという思いがあります。だから、様々な機関が関わっていくきっかけになればいいなと思っています。学校現場も閉鎖するのではなくて、開いていくきっかけになればいいなと思っております。

【加藤部会長】（うめだあげぼの学園）

そのきざしっていうのは、期待できそうですか？

【上遠野委員】（こども支援センターげんき所長）

それは継続的に働きかけていかないと多分ならないので、そこはしつこくアプローチしてやっていかないといけないと思います。一度そういうことを理解して広がっても、他人事みたいなまたもとの形に戻ってしまうところがあると思うので、そのためにもしっかり状況を見ながら、必要なポイントポイントできちんと意見を言っていくとか、その辺の確認をしていかないと、大変難しいと思います。

【加藤部会長】（うめだあげぼの学園）

そういう意味ではそれを見極める場がどういう場かっていうのが、校長先生あるいは管理職だけに任せちゃっていいのかって

いう不安がなんとなくあります。

【上遠野委員】（こども支援センターげんき所長）

やはり、そもそも学校の方でも、そういうことを常に検証するというか、場をちゃんと設けて継続的に動かしていくとか、あるいは仕組みとして1つ作っていかないと、志だけでは難しいところもあるし、あと各現場がちゃんとそれをやっているのかというのは我々も一緒に確認してやっているとこです。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

まあ、かなり大きな期待があるんですけど、そういう情報をこういうので共有していくってことも、とても大事なような気がしますね。だから、そういう情報が出てくるのかどうか、こういう場にですね。ぜひ、できたらいいですね。ありがとうございました。それでは次の委員よろしくお願ひ致します。

【オブザーバ中村】（中央本町地域保健総合支援課地域保健係長）

あまり情報はないんですけど、保健センターの方では、すべてのお子さんの検診がございますので、どのお子さんにも1度はお目にかかります。その前に赤ちゃん訪問とか妊娠届から始まる場所なんですけれど、お子さんができた時から、その方がどういう状態なのかっていうのをアセスメントさせていただいて、その方の支援のレベルを点数化して、あの子はかかわらないといけなかっていうのをそこで見分ける、それから本庁の中にある妊産婦支援係というところで、乳幼児検診に来ない方には連絡できますし、全ての方にお会いして、お母さんの状況とか、お子さんの状況とか、子どもの成長はもちろんなんですけど、ご家庭全体がどのような生活をしているの

か、というのを健康面ですけれども、見てアセスメントしてということをしております。あと、検診では、1歳半と3歳と必ずお会いしますので、その時点で子どもの発達がどうか、子育てがどうかということを見ながら、関係機関に必要であれば、あしすとか、げんきにつなげたり、あるいは地域の保育園や幼稚園と連携しながら、支援をしているというような形になります。先ほど他の方からもお話ありましたけど、面前DVとか、児相やげんきからの問い合わせもたくさんあって、この人がどういう検診の経過なのかとか、予防接種の状況はどうかとか、その辺りの情報を共有させていただいて、その方が緊急の支援を受けられるようなことをしております。あと、夏休みのお話が出ましたけど、8月くらいになりますと、子育て中のお母さんたちも里帰りをするとかそういうことがあって、ご自分のご実家の親御さんとの関係性だったり、あるいは、ご主人の方のご実家に帰るといことになると、その姑さんとの関係で、子どものことをこう言われたあ一言われたとかという相談が7月や8月には多くなるような時期かと思ひます。お母さんたちが、誰かに相談できて、話す人がいればいいんですが、相談できない人だとか、なかなかつながってこない方にどう接していこうかなというところが課題と考へているところでございます。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

ありがとうございました。では、内山委員、お願ひします。

【内山委員】（北療育医療センター城北分園医療担当課長代理）

城北分園の医療ソーシャルワーカーの内山です。私共年間を通して、相談の件数はそんなに変わらないんですけど、この7月8月で増えるのが、0歳の時から外来

の診療の方に来て歩けるようになったお子さんの幼稚園相談、これが一気に出てきます。それと、幼稚園や保育園に通っていて、肢体不自由のお子さんは、訓練とかでつながっていますので、そのお子さんの来年度の就学について、げんきにつながっているんですけど、それでも相談に来るといふ、あと入園についての相談が、結構なケースで来ます。特に2歳になると、やっぱり幼稚園に行かせたいという、親御さんだけでなく、周りのご要望がすごく熱くて、さっきも言ったように田舎に帰ったら幼稚園に行かせろって言われたんだけど、ということでもまさに今相談に来るんですね。なかなか幼稚園の情報は私のところに入っていないので、これまでの経験で受け入れてもらったところとか、個別の相談を通しての情報しかなくて、あと今ちょうどげんきに寄ってきてもらってきたんですけど、この幼稚園ガイド、これを頼りにするしかないんですが、やはり障がいを持っているお子さん、発達に課題のあるお子さんの保護者の方で、うちで待っててと言われて、足立区の一覧表全部かけたんですけど、どうしたらいいですか？という相談が、本当にそれは稀ですけど、そういうこともあります。なので、先ほど言われた通り、このような情報交換できて、私たちみたいに相談を担当している者が、こういう情報を発信したりだとか、お母さんたちが本当に分かりやすく、地域の幼稚園に通えるような情報とかは、得られる場所があるといいなと感じます。あと、相談支援の事業所につながっている方もいるんですけど、なかなかその部分の相談というのは、やはり難しい現状があるので、医療機関のワーカーにつながっているお子さんは良いんですけど、そうでなくて、相談する場所がない方もたくさんいると思うので、なんかこう気軽に、保育園だったら行けばっていうのがあるんですけど、幼稚園にも、相談の窓口

みたいなものがあるって分かりやすくなるというのというのが私この時期に実感するのと、あと、幼稚園に通っている5歳児さんですね。集団に移っていくにはどうしたらいいのかという不安のあるお子さんで、就学相談にかかっているもまだまだ悩みながら他の専門職の意見も聞きたいという方、相談支援事業所が立ち上がって、相談する機関ができたけれども、実際にどこまでその機能が果たしているかっていうのと、就学について相談に行くとか、不安を訴えたり、気持ちを整理しながらとかっていうのは難しい。分園にかかりながら、幼稚園や保育園に行っている方は、幼稚園や保育園の先生から、じゃあ城北にも相談してと言われて、またこちらにもきてもらうっていうことはできるんですけど、療育施設、児童デイにかかっているお子さんは、児童デイでは誰に相談していいかわからないっておっしゃる方もいらっしゃるんで、発達に課題のあるお子さんたちの就学に向けての相談、げんきはあるんですけど、さっき加藤先生がおっしゃったみたいに、それぞれの事業所に相談できるキーパーソンみたいな人がいるといいのかなっていうのと、あと幼稚園に関しての入口の部分で何か相談できる場所があればいいのかなっていうことが、この夏休み期間ですね、毎年のように実感しております。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

はい、ありがとうございました。それでは古里委員よろしく申し上げます。

【古里委員】（南花畑特別支援学校コーディネーター）

南花畑特別支援学校の古里です。よろしく申し上げます。1回目出られずに申し訳ありませんでした。本校は知的の特別支援学校なんですけれども、今城北特別支援学校と一緒にするための工事をしていて、27

年度から準備をしているところなんですけれども、校舎はとてもきれいになって、知的の方はもう引っ越しをしている感じなんです。昨年度も新入生が30人いて、今年度も30人を超えてということで、だんだん教室がなくなる、なくなっていくというような、ちょっと不安になっているところがあるんですけど、まだ仮運用なので広い部屋がないので、30人を1学年なんですけど、まとめて集まる場所もまずなくて、その学年が落ち着くまでに半分くらいに分けながらうまく利用しているんですけど、子どもたちも人数が増え、家庭的に支援が必要なお子さんも増えたということで、学校生活を軌道に乗せるまでが結構、1回目の年からハプニングがあって、私が対応することになってしまったんですけど、うめだ・あけぼのと周囲の方々に協力していただきながら、やっと5、6月になって子どもたちが、しっかり学校に来れるようになって、家庭的に事情があるお子さんたちがだんだんついてきたかなーというところで夏休みになってしまうので、そうするとまた夏休みが不安で、心配になっちゃって、お母さん、夏休みはどういうふうに過ごすの？とか、デイが足りないならデイを増やそうとか、ヘルパーを探したいんですけど、ヘルパーが本当に最近いなくて、探しても探しても本当にいっしょらなくて、そうしたらショートステイを使おうとか色々工夫しながら、子どもたちがとにかく家庭だけでなく、色んな所の方から目が届くようにということで、それで夏休みを迎えるっていう感じなんですけれども、そして、来年度に向けても、体験入学が50名ほど入っていて、夏の段階で全員来る訳じゃないんですけど、人が増えているんじゃないかっていう先ほどのお話を聞いていても、やっぱりパーセンテージはそのままですかという感じがあるような気がしています。うちはセンター校なので、

小学校や中学校から研修会をしてくださいますというような話があるんですけど、ちょっと前までは特別支援教育とか合理的配慮についてお話してくださいというのが多かったんですけど、ちょっと意識が少しずつ進んでるのかなと思っているところです。先日夏季講演会で自閉症の当事者の方に2人来ていただいて、お話を伺って、感覚の過敏さの大変さっていうのがとても衝撃を受けたっていうか、想像していた以上に教科書以上に過敏さがある中で生きてらっしゃるんだなと思った時に、やっぱり小学校とか中学校の発達障がいの子供たちは、きつい環境なんだろうなってしみじみ思った夏でした。はい。以上です。

【林田委員】（城北特別支援学校コーディネーター）

お隣の城北特別支援学校の林田です。よろしくお願ひします。お隣なんですけれども、就学相談のところ、いつもは肢体不自由の方で15人、今は18人いて最大なんですけど、今年はもっと問い合わせが多くてプラス10人、30弱くらいの問い合わせがあるんです。足立区と荒川区を合わせると史上初でどうしちゃったんだろうって、学校がきれいになったから、それでかなって思っていたんですけど、でも一人ひとり様子を聞いていくと、やっぱり城北だよなって、肢体不自由の方がいいよねって方ばかりで、なんでだろうってすごく思います。城北に限ったことではなくて、城南も多いし、墨東も多いし、肢体不自由って聞いてまわると、なんでこんなに増えているのかなっていうのがすごく率直なところで、それで肢体不自由の方はすごく丁寧に入學相談しますので、1人1人今体験を受け付けている状態で、すごく増えているってことと、あと肢体不自由のことだと、医ケアのお子さんがですね、やっぱり増えていて、昔は医療的ケアは移行中心って感

じでしたけれども、そうではなくて、医療的ケアがある、酸素はあるんだけども歩いている方とか、それから移行はあるんだけども、主障がいと聾があって聞こえないっていうのがあったりする、そして酸素がある、どっちに行ったほうがいいのかなくてどこに行ったほうがこの子のニーズを保障をしてあげられるだろうっていう狭間で悩むような感じの方がすごく多いです。今年から足立区の障がい福祉課の方で、医ケア児ネットワークを立ち上げて、区の方でも、医療的ケアのお子さんの実態を把握し始めたところなのかなっていうふうに思うんですけれども、医療的ケアがあっても、イコール肢体不自由ではなくて、本当にその子のニーズに合ったところに行かせてあげたいなって思う感じです。本当にその子がどこがいいのかなっていうことをみんなで考えなければなっていうのが1つと、それが入口ですけど、出口も、出口はやっぱり12年間学校で与えられた12年遅れていくので、まだ出口は医療的ケアがある子を重心にっていう感じで、そうでない子とかがだいぶ増えてきているということで、出口の生活介助の施設とか、通所の施設とかになると、ちょっとやりとりをしながら、どこがいいのかなっていう話をしている、それから受け入れをどういう形にすればいいのかなんて思っています。やっぱり、医学の進歩によって、多分助かる命が増えたんでしょうね、きっとね。それで、様々な状態の方が多くなっているんだらうなっていうことをすごく感じます。それからあとは、入学より前の方の発達支援をしているところも増えてきましたので、そこの擦り合わせとか、色んなことが課題としてあります。はい。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

医ケアの話になるんですけど、関係者だけで完結して集まって議論しててもなかな

か、地域の中で暮らすっていう話にもなっていないと思うんですよね。やっぱりこういう場で、色んな角度から議論をする、支援を考えるみたいなことが、生活っていうのはそういうことだと思うんですよね。いつもなんか抱えて生きている訳ではないですから、色んな意味で色んなシチュエーションでみんなができるところから、手を出して、重ねてっていうそういう話が大事な訳で、そういう意味でも、障がい種別ごとに話もう過去の話であって、今は、そういうものをまさに包括的にね、地域の中で把握してとりあえず受け止めて、みんなでできるところをやりましょうみたいな、今の話だとは思うんですよね。だからその、医ケアの子どもたちを足立区でっていう話はそれはそれでいいんですけど、それをそこにとどめないで、できるだけ早くこういう場にリンクさせていく、統合していくみたいな話が大事だと思うんですよ。なんとなく個別的に扱うと丁寧のような錯覚に陥るんですけども、実はそれは落とし穴で、実はその先はドンづまりなんです。そういう意味では、どれだけ国が栄えたとしても、お金持ちになったとしても、それに1つ1つ対応するような制度や仕組みはありえないし、また、理念的にも私はそれは違うと思うんです。そういう意味では、できるだけ広く多面的に重層的に、そういった方たちの様々な困難さを考えていくというシステムや場が必要かなと思いますね。

【林田委員】（城北特別支援学校コーディネーター）

そうですね。そういうことを考えてもらえると、こういう場はすごく深まっていくと思います。もう1つ医ケア関係では、医療の関係者とかはそのお子さんの体調や医療的ケアの概要のことはすごくよくご存じなんですけど、それを学校にもってきたと

きに、学校のシステムとそこの擦り合わせがなかなか難しいってことがあって、例えば、通学のお子さんなんですけど、誤嚥があって、誤嚥が見つかったと。それで、今まで食べていたんだけど、食べられなくなった。お医者さんはまた食べていいよってお母さんに言うんです。でも、学校では誤嚥が見つかった時点でもう口からの摂食はダメなんですってことを通訳して、まず前情報として入れておいてから、先生と違う方向で話をしていってくださいっていうふうに、間を取り持つ人がいないとなかなかその擦り合わせができない、それにお母さんが食べられるんだったら食べさせたいっていうふうに思うから、そこにすがるようにするんだけど、でもこっちではこうなっているんですよってことをお互いがわかっていないと、なかなかうまくいっていかないんだなってことをすごく感じます。それは医療とかもそうですし、福祉とかでもそうですし、はい。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

そういう意味では、子どもを中心に色々な角度からそういうことを議論する場ですね、今はそういう方向に事態は進んでいるように思うんですね。やっぱりそういう古典的な手法でなんか進むから、なんとなく、どういうことやるっていう気持ちになれるんだけど、あまり実効性がない。まあ、それは色々事情があるということですよ。それじゃ竹内委員お願いします。

【竹内委員】（足立区肢体不自由児者父母の会）

肢体不自由児者父母の会の竹内です。長い長い夏休みが終わりまして、うちの子は高校2年生ですけど、学校がある時は、学校と家庭と放課後等デイサービスを利用しているご家庭が多いですから、その3つで、毎日過ごして、家庭だけじゃない、子

どもを3つで支えているというイメージがとっても私自身ありますけど、夏休みが始まって学校がほとんどなくなった時に、放課後デイと家庭だけの生活というお子さんが多くなる時に、私は母として、お隣のお家ではどうなのか、お友達のお家ではどうなのかという母同士の横のつながりってというのは、やっぱりこんなに大きいのかって感じることもありました。小さい、学年の下のお母さんは本当に上手にネットワークを使っていますし、逆にそれがとっても怖い状況になっている家庭もあります。私の同世代がギリギリ「スマホをまだ持っていませんからガラ携にしてください」とか、「ラインはやりたくないです」という世代、一番狭間の世代なんですけど、やはりお母さん同士のつながりを持ちたいって思うところで、私たちの会も、どういふふうにかつてつながりをもつ団体になっていくかっていうのは、とても大きな課題だと思っています。昨年度、皆様方の関係図っていうのを作っていただいて、それぞれ見たときに、やはり、会としてというか、父母の会のお母さんたちの、その個々の団体がどう皆さんと関わりを持っていかつていうのは、すごく課題だなと感じました。関係図の中に、こういうことはもしかしたらお母さん同士の方がいいんじゃないかなって思った時に、こういう会があるんですよっていうふうで紹介してもらえることが私たちのメリットですし、やっぱり親同士のつながりっていうのがとても必要かなっていうふうに感じています。私はこの会には、足立区の父母の会の代表で出ますが、重症心身障がい児者を守る会という医療的ケアの重たいお子さんたちの会にも所属しております。そちらの会ももちろん、福祉の方の行政の方々と話をさせていただく機会がありますけれども、やはりその看護、病気ごとに、病気だと分かった時点で、いろんなお話を聞きたいというお母

さんたちをつなげてくださってというふうには、お願いしているんですね。こういう会があるから、何かあった時に、こちらの方にもどうぞということで、言ってもらったりしています。そういうことで会としてはつなげていきたいなというふうに感じました。お知り合いになっただけで、こういうことで困っている方がいるんだったら、どういうふうにもう支援っていうのが、母は母同士の支援が本当に大事だっていうのを感じた夏でした。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

お疲れ様でした。じゃあ江黒委員、お願いします。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会会長）

先ほど、アナログのサポート手帳というようなことがありましたけど、育成会の方でも、アナログの手帳みたいなもので「つなぎ」というものがあって、もちろん小さい時のそういう記録から、今の状態の記録を書くようにしています。それはやはり親の会の方にも、高齢になると色々と支援サポートする場所があって、親が亡くなった後でも、その子のことがわかってもらえるようになっていくことで書こうねっていうことで、今保護者に渡しておりますが、やっぱり小っちゃい時から書いてないので、もう忘れちゃっているんですね、昔のことを。やっぱり利用者の時期から、そういうことがあるとね、先ほどお話聞いてて、障がい者年金をもらう時には、うちの子はもらっているんですけど、事細かく小っちゃい時から今までのことを書かないといけないので、そういうことを考えると、今からそういうことに慣れてね、子どもの記録をパソコンに打ち込むのもいいし、手帳に書いてもいいし、ということは親の意識かなっていうふうにも思いました。また、親の

会では、先に区の予算の前にと、足立区への予算要望ということで、教育とか障がい児とか、虐待とか、それから就労支援のこととか、いろんなことについて要望させていただきました。そこでも地域生活支援拠点というふうなところで、区の子どもの生活ということで、高齢者の地域包括ケアみたいなものの障がい者版みたいなんですけども、それとか、緊急保護とか、それから就労支援とか、1人暮らしとか、色々なところを拠点として、障がい者がその地域で暮らしていく、生きていけるようなところを作っていくというふうなところでお話をさせていただきました。また、先ほど、就学支援シートの話がありましたけれども、やはり親の会でも、都立の特別支援学校に入る時に、その就学支援シートを区立の学校に催促してももらえなくて、頑張ったんですよという話も聞いております。もし全員に書きましようっていうことを周知できれば、一番子どものためにもいいのかなって。あと区立なんかでは以前、校内委員会といって、障がいがあったりとか、問題があるお子さんも話し合っ、ここからどういうふうにも支援していこうかということ、校長、保護者、担任で話をする場が設けられていたのですが、保護者に聞いてみると、もう特別支援学校に行きなさい、というふうな校内委員会です。改めて、我が子のためを考えて、こうしていこうああしていこうではなくて、もう特別支援学校に行きなさいという切り札の委員会だというふうなところを保護者が言っていたので、やはりそういう印象も変えていかないと、なかなかその就学支援シートが切り捨てられる手段として使われてしまうという意識が保護者にちょっとあるということで、そこもちょっと変えていかないといいのかなって思います。以上です。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

はい、ありがとうございました。本当に改めてそれぞれの立場でこの2か月間を振り返っていただいたんですけど、かなりこの地域の子どもたちの置かれた状況とか、抱えている子育ての課題だとか、そういうものが改めて再認識できたのかなっていうふうに思います。そういう意味では、こういうことを時々振り返りながらですね、それぞれのテーマについて代表さんと意見を交わしていただくというふうに致したいです。そういう意味で、今日ケーススタディということで、冒頭言っていたように、前回そういう前ふりをさせていただいたところではありますけど、もうあと30分ちょっとしかないんですね。どうしたもんかと悩んでいるところなんですけど、とにかく先ほど竹内委員から話がありましたように、15年間ほとんど変わっていない、何にも進んでないというようなそんな思いがあるとおっしゃっていただいたんですけど、ひょっとすると、なんかそんな状況があるんなところにあるかなという気がしないではないですね。だから、忙しくはなっているけど、様々な課題を抱えながら生きている人たちが、それを障がいと言わなくても構わないわけですが、本当に幸せに近づいているのかなと考えた時にですね、あんまり近づいてないような気がして、かえって裸にして放り出されてむき出しになってしまっているみたいなね、非常に包容力のない町になってきちゃっているような気がしないではないんですけど、だからこそ、地域の中で個々ある人たちがつながって、見やすい育てやすい暮らしやすい、そんな地域を足立区で作っていただけたらと思います。そういう意味で、先ほど発達的な話をいただいたものですから、そういう情報といいますか、それぞれみな持ち場持ち場で色々な情報をお持ちですし、人脈もお持ちですし、色んな知見もお持ちです

し、経験もお持ちですし、やっぱりそういうものを足立区の中できちっと、アップして持って、それを受け止めた、アクセプトした人が、その内容によって、それをそういう人たちに振り分けていくみたいなね、そしてすぐ、できるだけショートタイムで答えをお聞きして、伝えていくみたいなね、そういうことであればそれほど難しい話ではないんじゃないかなっていう気がします。じゃあそのために区の職員1人付けろって話になっちゃうかもしれないけど、なんかこうそういう窓口の方がおられて、そして、例えばここにいる今集まっておられるメンバーをそこにリストアップしておいて、さっとなつなげて、その方からの情報なり、知見をいただいて、返していくっていうようなね、できたらいいなって気がしますし、またその病院での悩みも大変で、走り回っているお母さんたちの中には、足立区民の方も当然おられる可能性がありますよね、場所が近いですし。そういう意味でも、足立区民の中にそういう方っていうのは、ある意味もうわかっているんじゃないかなっていう気がしなくもない。あるいは、その気になれば、ある程度その、データベースっていうんですかね、それつかめるんじゃないかなと思いますし、またそれを多分、そんなにべらぼうな数ではないだろうと思うんですよね。だからそういう意味では、まあそれこそ、部外者が関係のないところからアクセスしたらびっくりされるでしょうから、関係者の方が、そういう方たちから、アクセスしていただいて、そういう情報につながっていったりとかね、サポート情報を提供していただくとかね、そんなことだったら、そう大した費用もかからず、ボランティアですね、やれちゃいそうな気がするんですけど、どうでしょうかね？

【竹内委員】（足立区肢体不自由児者父母の会）

肢体不自由のPTAの方の、連合会の会長をやっていた時期に、ホームページをリニューアルして、ホームページに入りやすい形に変えたんですね。いろんな方の相談というか、ちょっと学校には言えないけど、学校とのやりとりとか、PTA組織って何で入らないといけないのみたいなことも含めて、お母さんに相談するんだったらちょっと壁が低そうなところにポンって、メールってこんな簡単にみんな来るんだっていうくらい、とっても重たいメールもあったんですけど、校長先生とどうやってやっていったらいいですかとか、ありましたが、でもそれを誰かに言える場、その時に誰かに言って、その後自分でできると解決するにしても、なんか言った話を聞いてまたその後どうしようっていうその何かが見たい時にメールってポンって来るんだなと思って。看板とかいろんな肩書がたくさん書かれているところほど、相談ごとがしっかりしてないと、相談できないみたいなのがすごくある気がするんです。最初なんて言ったらいいんだろうみたいな、何歳の子どもの母親ですって言って、何を相談したらいいのかわからないみたいなのがきくとあると思うので、であればきくと本当に簡単な、こういうところで受け付けますよとか、そういうところにポンって投げたのを、本当に関係する方たちの誰かが拾って、それをどう答えてあげるかっていうのが色々なところで今始まっているかなと思うので、それをどうやっていけばいいかっていうのは、私もちょっとはっきりと明確には言えないんですけど。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

そういうのをもし作るとすると、それは行政の問題ですかね。それは民間でやってくださいっていう話になるんですか？

【竹内委員】（足立区肢体不自由児者父母の会）

多分行政が全部引き受けても、うまくいかないだろうなっていう、今色んなところでライン交換とかいろんなことをやっているんですけど、やっぱり技術的なところをしっかりと見ていきながら、でも、ある程度行政の方がなんとかしていかないと、全体に浸透していかないだろうなとも思うんで、だからそこらへんはうまくフォローしてやっていくような枠組みでいかないと、行政単体だけでやってもあまり機能しないだろうなっていうところは間違いないと思います。どうですか、江連さん？

【江連所長】

そうですね。相談の入口として、そういった所に作るのはなかなか難しいのかなと思います。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

行政はやっぱり敷居が高いですよ。

【江連所長】

支援関係者がある程度固まった中では、そういうところにいるいろんな話を投げて、その関係者が定期的に見ながら、アドバイスをするようなページっていうのは、医療介護の中でも、そういったところできていところもあるので、ただ、入口を広くして、そこに誰でも入れるっていうふうになってくると、なかなか想像が難しいです。責任を持ってそこにちゃんとアドバイスをして、落とし込めるかってところまでを図ろうと思うと、どういう形がいいのかというのは。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

その場を利用して色々悪いことを考える人もいっぱいいるので。松永委員はどうですか？そういうことに詳しい。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）

まさに SNS を作ってやろうと思っていて、課題が2つあって、蓄積していくという情報と本当に必要になってくる情報と、簡単に言うと、応援とか、元気出してーみたいな、そういったものは習慣的なもので、これは別に来年も必要であったりするんですけど、蓄積してくる情報っていうのは、蓄積していけばいいので、そこがやっぱり Web だとか、SNS の良さだと思うので、皆さんがおっしゃっていた、どうしようかしらっていう親御さん同士の相談っていうのは習慣的なものがあると思うので、そういうものは掲示板みたいなもので処理していくというのも、蓄積してくる情報というのは、蓄積させていけば、例えば、研修で必要な知識であったりっていうものについては、そこにおいてあれば、何万人が見ようが何千人が見ようがいいので、それは蓄積していけばいい情報に、大きく分けることができるかなというか、それをどうするかっていうことで、実はライングループの業者で僕らが組んでいるものがありまして、すごく便利なのが、送らなくていいよ、情報は託しますよ、何歳の女の子どの辺に住んでいて、これ誰かいないってやると、あっ、うち大丈夫かもって手あげてくれたら、説明したりとか、車いすが余ってるけど、どう？とか、遊具余ってる、どう？とか、じゃあうちにちょうだいとか、というラインは業者同士ではしているんですけど、親御さん同士ではちょっと、親御さんがそこに参加できるかどうかっていうとちょっと難しい。あとは母子手帳を電子化するっていうふうにこれからなっていくと思いますので、母子手帳の電子化に伴って、子育てについては電子化する、そこに我々支援者が参加して行って、付箋をつけるような感じですかね、掲示板に貼っていくようにする、ということが可能にな

るのではないかなって思ったりすると、時間の問題が出てくるんですけど、SNS を作ったらいいいのかなって思うと、300万円くらいかかるらしいので、あとはあけぼのさんがこういうのあるよっていうのを皆さんに貸し出せば、情報共有できるのかなとか、良い研修ができるのかなとか、ただセキュリティの問題だとか、その人が保護者なのか事業者なのかというのを選別して、みんなで判断しないといけないので、そこは見てやるべきなのかなという難しいところがあると思うんですけど、ソフト自体は安くてよくあるソフトを使えば、簡単に作れなくはないと思うんです。Facebook を作ることもできるし、グループを作ることもできる機能は、簡単ではないですけど、使い方次第にはなると思うんですけど、非常にラインは便利だなと感じております。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

こういうことっていうのはある意味では、スピード感が大事だと思うんですけどね。10年後に会議しますから、10年間待ってくださいと言われても、それは意味がない。今困っている、今助けてほしい、できるだけスピード感をもって提供できるといことが大事かなと。

【松永委員】（きたせんじゅステップ代表取締役）

だから、3年後に役所から3千万円ありますから、アプリケーションを作るとか、まさに役所だから3千万という世界ですけど、もっとかかるかもしれない。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

実際困った時っていうのは、そんなに特別な部局の特別な場所の課題では収まらない訳ですよ。横串にささないで、なかなか解決しないような話になる訳で、そういう意味でも今我々はそういうことを、縦に

整理されていることはあるから、横串にさして、一旦何か事が起きた時にパッとあちからこちから育ててきてチームが作れてその仕組みがね、どうするのみたいな話があったりするんですけど、ちょっと時間が中途半端な感じになってしまったので、少し早めに終わりますかね。

他のみなさん拍子外れになってしまって本当に申し訳ないんですが、ケーススタディをあやせ保育園とうちと2つ用意させていただきました。これについては誠に申し訳ないんですが、次回に、すいません。保育園の例と、それから療育機関というんですかね発達支援機関と2つケースが出てますので、これを吟味していけば、今日皆さんがお話しいただいたような、話題っていうんですかね、課題が浮かんでくるのではないかというふうに思います。多分、この状況は皆さんのそれぞれの持ち場でね、こう関連したり、つながったりとか、あるいは似たような状況でね、きっと出てくると思うのですよね。

うちもケースが多いですから、100人100様あるわけで、それに1つ1つ合わせてやっていくわけなんですけれども、なんでその子のケースを選んだっていうことから始まって、どういう視点でまとめてみたのか、どういう見方をするのか表現の仕方をするのか、色々こう悩んだんですね。だから、そういう意味で、皆さんのところに絡んでくるケースだと思います。

【上原委員】（あやせ保育園）

大変申し訳ないのですが、第3回こども部会の日はどうしても出席することができないので、事例をやっていただくのと、またの機会になるのか、なかったことになるのか、申し訳ございません 11月5日についてはちょうど午後が...

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
次回の部会は決まっているんですけど？

【勝田係長】

はい。11月5日（火）の14時からです。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
11月5日2時火曜日。あやせ保育園の園長さんには大変申し訳なかったのですが、これを他の先生と変わってっていう訳にはいかないんですかね？

【上原委員】（あやせ保育園）

クラス担任が都合がつけば...、あと副園長か...

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
せっかくですから、クラス担任の先生なら、このケースについての見立てもしっかりしているでしょうし、また、ここで議論することで、より深まると思うので、それはそれで意味があると思うんですけど、先生の方でなんとか...

【上原委員】（あやせ保育園）

ちょっとあの、戻りまして、状況を確認して...

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）
うちの方もですね、私もかなり準備のところドキッとしましたけど、本人に報告させます。

あやせ保育園の上原先生、すいませんが、申し訳ありません。今日はこちらで検討させていただくはずだったのですが、申し訳ありません。併せてそういう訳で、次回また。

【上原委員】（あやせ保育園）

はい。また確認して、勝田係長にご連絡すればよろしいですか？

【勝田係長】

はい。よろしくをお願いします。

【加藤部会長】（うめだあけぼの学園）

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

【司会】

それでは、議論は尽きませんが、お時間と
なっていました。

部会の議事録につきましては、委員の皆さんにご確認いただいた後、区 HP で掲載してまいります。よろしくをお願いします。

それでは、事務連絡をさせていただきます。

第3回こども部会は、11月5日（火）
14：00～開催予定です。

場所は本日同様障がい福祉センター研修室3を予定しています。

委員の皆様には、後日本日の議事録をお送りし、訂正箇所を修正後に足立区ホームページに掲載させていただきますので、よろしくをお願いします。

【司会】

以上を持ちまして、足立区地域自立支援協議会第2回こども部会を終了させていただきます。

本日はご出席いただきましてありがとうございました。お帰りの際にはお忘れ物などないようお気を付けください。